

令和4年度シラバス（国語）

学番28 新潟県立村上桜ヶ丘高等学校

教科（科目）	国語（言語文化）	単位数	2単位	学年	1年次
使用教科書	『言語文化』（筑摩書房）				
副教材等	尚文出版『これからの古典文法改訂版』、浜島書店『新訂版最新国語便覧』 尚文出版『基本の古典（古文漢文）1』				

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 指導の重点

進学・就職等、希望進路が多岐にわたっていることから、

- (1) 基本的な言語事項の習得を重視し、文章を的確に理解した上で、自分の考え方を確立させることを目指します。また、論理的に考え、共感したことや想像したことを言葉を通して表現していく力を養います。
- (2) 他者との関わりの中で自分の思いや考えを伝え合うことで、積極的にコミュニケーションを図る態度を育てます。
- (3) 文章に関連する本を紹介し、生涯にわたって読書に親しみ、自己を向上させようとする態度を育てます。

これらを中心に、社会生活に必要な資質・能力を養います。

3 評価規準と評価方法評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います			
	知識・技能 a	思考力・判断力・表現力 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言や発表、学習活動への参加状況の観察 ・定期考査の結果 ・授業内小テストの結果 ・ノートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析  などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言や発表、学習活動への参加状況の観察 ・定期考査の結果 ・授業内小テストの結果 ・ノートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析  などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言や発表、学習活動への参加状況の観察 ・ノートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析  などから、総合的に評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
4	第1章 古文への扉	3 C 読むこと	『宇治拾遺物語』 「児のそら寝」	・古典に親しむ態度を養う。 ・歴史的仮名遣いや古語と現代語の違いを理解し、正しく音読する。	a  c	・ノート（記述の点検）  ・取り組みの様子（行動の確認）

5	第1章 古文への扉	4 C 読むこと	『宇治拾遺物語』 「絵仏師良秀」	・話の構成、展開を把握し、登場人物の行動、心情を読み取る。 ・動詞の活用を理解する。	b c	・ワークシート (記述の確認) ・取り組みの様子 (行動の確認)	
	第14章 想像力が ひらく世界	6 C 読むこと	芥川龍之介 『羅生門』	・情景描写に注目し、物語の設定を確認する。 ・登場人物の心理の移り変わりを 読み取る。 ・人間のあり方について目を向ける。	a b c	・ワークシート (記述の分析) ・ノート (記述の分析) ・振り返りシート (記述の確認)	
	第4章 ことばに表 れる意思	5 C 読むこと	『徒然草』 「つれづれなる ままに」「丹波 に出雲といふ所 あり」	・形容詞、形容動詞の活用を理解する。 ・筆者の、人間や社会に対する考 え方を読み取る。	a c	・ノート (記述の点検) ・取り組みの様子 (行動の確認)	
	第8章 漢文への扉	4 C 読むこと	漢文を学ぶた めに	・漢文に親しむ態度を身に付ける。 ・漢文訓読の基本事項(返り点の種 類、用法、助字等)を確認する。	a c	・ワークシート (記述の分析) ・取り組みの様子 (行動の確認)	
	第16章 韻文の表 現(三)	4 C 読むこと	島崎藤村 「小諸なる古城 のほとり」 石垣りん 「崖」	・現代詩を鑑賞し、表現や考えをも とに、さまざまな世界を読み味わ う。	b	・ノート (記述の分析)	
	第16章 韻文の表 現(三)	2 B 書くこと	詩歌を作る	・詩の創作をし、発表しあう。	c	・発表の様子 (行動の確認) ・振り返りシート (記述の確認)	
	9	第3章 自分という 他者	6 C 読むこと	『土佐日記』 「門出」 「亡き児をしの ぶ」	・日記文学の特徴や作品成立の背景 について理解を深める。 ・助動詞の意味を理解し、現代語訳 に活かす。	a c	・ノート (記述の点検) ・取り組みの様子 (行動の確認)
		第11章 韻文の表 現(二)	3 C 読むこと	唐詩 「鹿柴」 「望廬山瀑布」 「登岳陽樓」	・漢詩のリズムを読み味わい、詩と して表現された作者の思いを読み取 る。 ・漢詩のきまりを理解する。	b c	・ノート (記述の分析) ・音読の様子 (行動の確認)
	1 0	第15章 多彩な表 現とイメージ	4 C 読むこと	蜂飼耳 「虹の雌雄」	・筆者の体験に基づく心の動きを読 み取る。 ・表現を工夫しながら自分の体験を 文章にして伝える。	b c	・ワークシート (記述の確認) ・発表の様子 (行動の確認)
		第2章 人間の普遍 的な姿	9 C 読むこと	『伊勢物語』 「芥川」 「梓弓」	・和歌に込められた登場人物の心情 を的確に読み取る。 ・和歌の修辞法を理解する。 ・助動詞の意味を理解し、現代語訳 に活かす。	a c	・ノート (記述の点検) ・取り組みの様子 (行動の確認)
第9章 漢語の特色		2 C 読むこと	唐詩紀事 「推敲」	・漢文訓読の基本事項(再読文字) を確認し、正しく訓読する。 ・現代に生きる故事成語の由来に関 心を持つ。	a c	・ノート (記述の点検) ・取り組みの様子 (行動の確認)	
第9章 漢語の特色		3 C 読むこと	戦国策 「借虎威」	・漢文訓読の基本事項をもとに、正 しく訓読する。 ・話の展開を把握し、たとえ話の意 味を考える。	a c	・ノート (記述の点検) ・取り組みの様子 (行動の確認)	

1 2	第16章 韻文の表現(三)	3 B 書くこと	短歌 俳句	・短歌や俳句の鑑賞方法を学び、想像力や感受性を豊かにする。 ・俳句を創作し、作品を鑑賞し合う。	b c	・ワークシート (記述の確認)  ・取り組みの様子 (行動の確認)
	第14章 想像力がひらく世界	6 C 読むこと	夏目漱石 『夢十夜』 第一夜 第六夜	・習得してきた小説の読み方を踏まえ、文体や表現に注目して「夢」の時間軸の揺らぎを読み味わう。	a b c	・ワークシート (記述の分析) ・ノート (記述の分析) ・振り返りシート (記述の確認)
2	第7章 練り上げられた思考	3 C 読むこと	『正徹物語』 「待つ恋」	・習得してきた古文の読み方を踏まえ、和歌に対する筆者の考えを読み取る。 ・助詞の働きを理解し、まぎらわしい語の識別をする。	a c	・ノート (記述の点検)  ・振り返りシート (記述の確認)
	第10章 言動に表れる人間の本質	3 C 読むこと	管鮑之交	・習得してきた漢文の読み方を踏まえ、描かれている人間の姿を多角的に読み取る。	b c	・ノート (記述の分析)  ・振り返りシート (記述の確認)

計 70 時間 (50分授業)

※領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	B「書くこと」 5 時間	C「読むこと」 65 時間
-----------------	-----------------	------------------

#### 6 課題提出物等

- ・単元ごとに授業内小テストの実施や振り返りシートの記入をします。
- ・長期休業中の課題は別途指示し、休業明けには課題テストを実施します。
- ・学習内容に関連した課題を随時課します。
- ・上記の小テストの結果や課題の提出・取り組み状況やその内容は、評価に含めます。

#### 7 担当者からの一言

「言語文化」は生涯にわたる社会生活に必要な国語の能力を育成し我が国の言語文化に対する理解を深める科目です。国語や言葉の知識を身に付けることに加え、論理的に考え、他者との関わりの中で共感したり想像したりする力や伝え合う力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりしていきましょう。こうした力は、さまざまな学習に生きる力です。受身ではなく、目的意識を持って、意欲的に取り組むことを期待します。